



初めての

高校授業を終えて

西 伸 之

中学校の再任用教員から高校の非常勤講師に転じて、1年間の授業が終わりました。1年間といっても、春先はGW明けまではコロナ休校、また私が担当した3年生は1月末のテストで、授業は終わったので、夏休みを除くと実質8カ月程度の授業でしたが、新鮮でやりがいのある毎日でした。

1月末の最後の授業とレポート形式のテストで、生徒が書いてくれた授業の感想や政治経済への意見は、どの子も「打てば響く」素晴らしい力を持っていることを、改めて私に教えてくれ教師としての喜びを味わわせてくれました。

生徒たちの感想や意見を紹介します。

◇政経の授業でいろいろなことを学び、自分の生活・考え方が変わりました。今日本や世界で起きていることやニュースに目を向けるようになりました。もし1年生の頃から学べていたら、もっといろいろなことを知れたのと思います。知るといいうきつけを作ってもらえて本当によかったです。

◇普段ニュースを見ても気にも留めなかった、黒人差別や原子力発電、核兵器のこと、女性差別などが大事な問題だということがわかりました。授業のおかげで、教科書に載っているような基本的な世の中の動きや働きだけでなく、日本の抱えている問題のほかに、他国の抱えている問題などを知ることができたとし、自ら行動している方がたくさんいること、私たちが知らないところで努力している方がたくさんいることを知ることができたのは、すごく良い機会だったと思います。世の中について知ることから始めていきたいと思っています。

にいがた

北から南から



◇この1年で、今の日本や世界について知ることができた。当たり前前に生活をしていると、ふとこのままでいいのだろうかと思うことがある。自分の生活を見直そうと思った授業もあった。

◇その日の授業の内容について、自分の意見を考えたりどのように思うか考えたりして、考える力が少しでもついたかなと思う。世界で起こっていることを知る、そして自分の頭で考え行動することの大切さがわかった。

◇1年間の授業を通して、たくさんを知ることができた。普通に教科書を開いて黙々と受けるより、DVDなどを見てリアルタイムで問題について教えていただけたことで、前まで全く興味を持っていなかったニュース番組も、少し興味を持つて見るようになった。日本や世界について自分にも関係のあることだと思うようになった。

◇他国でデモがよくおきて日本でおきないことを、「今の若者は政治に興味がないから」と言うけど、わかりやすく教えてくれないか

ら若者は知らない。自分で調べようもない。そもそも知らないから。でも、それで終わらせたくないと思いました。

◇世界では差別や温暖化、難民や核兵器など問題がたくさんあり、私たち若い世代が変えていかなければならないと感じることができた。解決するためにやることはいっぱいあると思うけど、身近でできることからコツコツとやることで社会貢献になるとわかった。日本や世界の問題に対して「何かできることはないか」と考えられる人になりたい。

知らないかったことを知る楽しさ。そこから広がり深まる社会認識と磨かれる感性。自分で考え表現する経験を重ね育っていく主体者としての自覚。他者の考えに触れて気づく多様な考えと価値観。自分も社会に影響を与える力をもつという主権者意識と、よりよく生きたいと思う前向きな気持ち。授業を通して改めて「教育」の力を教えてくれた彼らに感謝です。



生徒が心を開くのは

高校生になると、授業をさぼるハードルが低くなり、私の授業も、固定したメンバーがお休みしたり遅れて教室に入ってきたりすることがありました。年をとったせいもあるし私もサボることが多い高校生でしたので、そんな彼らを叱る気は起こらず、むしろ「懐かしい」「気持ち分かる」と思ってしまった。一方、そんな彼らであればあるほど、授業で世の中や学ぶ意味を伝えたいという気持ちは強く、どうしたら彼らがサボらず政治や世の中について興味を持ってくれるか、いろいろ工夫しました。

教科書はほとんど使わず、パワーポイントとそれの穴埋めプリントを使う。毎日のニュースやドキュメンタリーを10分程度に編集し、見せながら解説し感想を書かせる。みんなの感想をプリントにまとめ次の授業で使う。4月から社会人になる彼らを守り力となる知識や考え方を、授業のいろいろな場面で伝え語る。新聞の記事や小説・映画や音楽を積極的に

に紹介し活用する。世界や日本の深刻な課題を学ぶだけじゃなく、少しでも「いい世の中」をめざし前向きに生きている有名無名のたくさんの方のステキな人たちを紹介する。私自身の失敗経験や、出会ったたくさんの生徒たちの成長エピソードを紹介する…。

そんな授業を心がけたことが上記のような感想につながったのだと思いますが、それらの前提となるのは「生徒へのまなざし」だと思うのです。高校生たちとつき合って強く感じたのは、自分への誇りや自信が希薄で「どうせ自分なんか…」と自分を卑下し否定的に見ている子が多いことでした。それは、彼ら書いた「今言いたいこと」にも表れていました。

そんな彼らに、授業中のやり取りや授業後の雑談を通して、「君のこと、たくさん聞かせてほしい」「君のことを気にかけているし、君はとても大事な人だよ」「君の考えや君の意見を尊重するよ」のメッセージを伝え続けました。

にいがた

北から南から



「私たちが来るとうれしそうな顔をしてくれたことがうれしかったです」「学校をさがりがちであまり授業に出れませんでした、政経はとても楽しく授業を受けられました」「先生には迷惑をかけてしまったけど、いつでも優しく接してくださってありがとうございました」「(授業に) いないときもたまにあつたり、たくさん迷惑をかけたかもしれませんが、廊下で会うといつも元気にあいさつしてくれたり、とてもうれしかったです」などと授業の感想に書いてくれた「サボりがちな」彼らからのメッセージは、また私の大事な宝物になりました。

(にし のぶゆき)



お寺のこと二題

内山 雄平

どう読む「般若心経」

私は、高校教員退職後、菩提寺の護持会長に推され心ならずも引き受けることになった。それまで、仏教についての知識は殆どなく、高校時代に教わった空海、鎌倉時代の親鸞・道元などの著書名程度しか記憶になかった。だから、仏教の世界は何も知らぬまま護持会の仕事に携わることになる。ましてや、宗務所など何を業務としているところか分からなかった。

お寺の属する第18教区の春秋の総会時には、本尊上供として必ず般若心経を音読する。教本を手にとつて目で追いながら声をあげるが、その意味たるや全く分からぬまま時を費やし